

2022年度 第4回運用容量検討会 議事録

日 時：2023年2月13日（月）13：10～13：40

場 所：Web 開催

出席者：

- 守谷 直之（北海道電力ネットワーク株式会社 工務部系統運用グループリーダー）
- 宮崎 裕一（東北電力ネットワーク株式会社 電力システム部給電グループ課長）
- 福田 拓広（東京電力パワーグリッド株式会社 系統運用部系統運用計画グループマネージャー）
- 濱田 大善（中部電力パワーグリッド株式会社 系統運用部系統技術グループ課長）
- 清水 康広（北陸電力送配電株式会社 電力流通部系統運用・保護チーム統括課長）
- 吉田 貴之（関西電力送配電株式会社 系統運用部系統技術グループチーフマネージャー）
- 保田 創（中国電力ネットワーク株式会社 系統運用部系統技術グループマネージャー）
- 楠 俊成（四国電力送配電株式会社 系統運用部給電グループリーダー）
- 小杉 成史（九州電力送配電株式会社 系統技術本部電力品質グループ長）
- 下形 竜也（電源開発送変電ネットワーク株式会社 変電・系統技術部系統技術グループリーダー）

事務局

- 久保田 泰基（電力広域的運営推進機関 運用部長）
- 田治見 淳（電力広域的運営推進機関 運用部担当部長）
- 江郷 賢人（電力広域的運営推進機関 運用部マネージャー）
- 永吉 広樹（電力広域的運営推進機関 運用部）
- 山名 涼太（電力広域的運営推進機関 運用部）
- 秋葉 千曲（電力広域的運営推進機関 運用部）
- 酒井 重和（電力広域的運営推進機関 運用部）
- 太田 祐貴（電力広域的運営推進機関 運用部）
- 笠 勇夫（電力広域的運営推進機関 運用部）
- 後藤 光（電力広域的運営推進機関 運用部）
- 菊池 紀隆（電力広域的運営推進機関 運用部）

配布資料

- 1-1 2023～2032年度の連系線の運用容量（年間・長期）
- 1-2 各連系線の運用容量算出方法・結果
- 1-3 設備停止時の運用容量について
- 1-4 2023年度・2024年度連系線の運用にかかわる平日・休日カレンダー

議題1：2023～2032年度の運用容量（年間・長期）に関する資料について

事務局から資料1-1～1-4について説明を行った。主な議論は以下のとおり。

〔主な議論〕○検討会 ●事務局

●：資料1-1～1-4は、各連系線の運用容量算出結果等を集約したものである。

今年度の2023～2032年度の運用容量（年間・長期）算出において、昨年度から算出方法を見直した事項は、次の2項目である。

(1) 夏季・冬季熱容量の整理・公表

連系線の両端において冬季熱容量が異なる値であったため、冬季熱容量の算出条件を整理し、冬季熱容量限度値を算出する。（対象連系線：中部関西間連系線、北陸関西間連系線）

(2) 熱容量の適用期間細分化

再エネ出力制御量の低減、電力取引の活性化、緊急時の運用容量拡大効果が見込まれる連系線を対象に、熱容量の適用期間を細分化し熱容量限度値を算出する。（対象連系線：中部関西間連系線、北陸関西間連系線、関西中国間連系線、中国九州間連系線）
熱容量限度値の算出にて設定する周囲温度を見直したことで、関西中国間連系線（中国向）において、昨年度算出時に比べて、5、10月の運用容量が278万kWから295万kWへ増加（+17万kW）した。

●：東北東京間連系線の「熱容量限度値の考え方」における電源制限・負荷制限の織り込みの項で相馬双葉幹線は電源制約あり、負荷制限なしの記載だが系統状況によっては負荷側UFRが動作し、負荷遮断に至る可能性があるのものでその旨、追記することでどうか

○：負荷側UFRが動作し、負荷遮断に至る可能性があるのものでその旨、追記することで問題ない。

●：これらの資料について、2023年3月1日公表に向け、広域機関にて手続きを進める。

以 上